## 大阪府立茨木高等学校 学校運営協議会 令和4年度委員等

委員 校長及び事務局員

添田 晴雄(会長) 高江洲 良昌(校長)

岩井 八郎 (副会長) 山脇 和美 (教頭)

柴田 仁 門野 良彦 (事務長)

中村 卓 本管 克江(首席)

樫本 佳子 森 登紀子(首席)

富永 陽子 森 佳希(教務主任)

籔 麻智子(進路指導主事)

市田 友宏(生徒指導主事)

# 令和4年度 第1回学校運営協議会議事録

日時:令和4年6月11日(土)14:00~16:00

場所:大阪府立茨木高等学校 視聴覚教室

出席者:【 委 員 】添田晴雄、岩井八郎、柴田仁、中村卓、樫本佳子、富永陽子

【校長・事務局】高江洲良昌、山脇和美、門野良彦、本管克江、森登紀子、 森佳希、籔麻智子、市田友宏

- 1. 校長挨拶
- 2. 委員紹介·事務局職員紹介
- 3. 議事
  - ① 本年度の「学校経営計画及び学校評価」について
  - ② 教科書選定について
  - ③ その他
  - ④ 次回運営協議会日程

#### <校長挨拶>

・4 月からここまでの学校の様子を報告。さらに、今年度のこれからの行事や取組みについて、新型コロナウイルス感染症に対する感染防止対策を講じながら、なるべく通常通りの内容を実施していきたい、との展望を説明。

### <委員紹介・事務局職員紹介>

・順に、自己紹介

<事務局からの「議事」に係る説明>

①本年度の「学校経営計画及び学校評価」について

校長より、今年度の重点目標、具体的な取組み計画・内容等について「学校経営計画」に 沿って説明。

委員:本校の目標等は、他の学校と比較してどのような特徴があるのか。

事務局:他の学校と比較して、ということではないが、世界へ目を向け、また地域へ向けて どんどん出ていこう、とする意欲を持っていることが特徴だと言えるのではないか。

委員:昨年度、第3回の学校運営協議会で、課題研究の成果を地域にも発表する場を企画 し、生徒たちが社会とつながる実感を持ってほしい、と提案したところ、すぐに実 現してくれた。

事務局:昨年度、委員からご提案いただき、茨木市立男女共生センターローズWAMのご協力で、1Fエントランスにて4月20日から6月30日まで、特に「男女共生」につながる研究を、いくつか展示させていただいている。研究の成果を発表できる場が地域にあるということは、生徒たちにとっても有意義なことであると思う。

委 員:現在、部活動の外部委託ということが、話題になっているが、本校では、それに向けての動きはあるのか。

事務局:今のところ、「動き」と言えるものはない。府立高校では、「部活動指導員」の制度 はあるが、指導者の選定や、部顧問との役割調整等、本校ではなかなか導入が難し い状況である。

委 員:地域とのつながりの中で、小中学生にスポーツの指導をする等、何か、「茨高スタイル」のようなものができればよい、と思う。

委 員:SDGsについても触れているが、具体的にはどのようなことを考えているのか。

事務局:取り立てて、「SDGs」について考えてみよう、というのではなく、さまざまな課題の解決が SDGs につながっていく、いわば「振り返れば SDGs」というようなことをめざしている。

☆今年度の「学校経営計画」の「今年度の重点目標」及び「具体的な取組計画・内容」について承認。

・令和3年度(昨年度)の取組みをまとめた資料をもとに、昨年度第3回の学校運営協議会以降に実施した取組み等について、事務局より説明。

\*今春の進路状況について

昨年と比較して、「共通テスト」の難化が見られたが、生徒たちは、世間の風評に惑わされず、最後まで自分の志望を貫いて受験した。結果として、いわゆる浪人が前年度より増えているが、これは、入試変革に対する恐れがなくなり、妥協することなく第一志望をめざ

した、と言える。

#### 

令和4年3月8日(火)から11日(金)の4日間で実施した。英語にフォーカスするのではなく、英語をツールとして、日本国内に正規留学しているさまざまな国出身の大学生・大学院生と議論し、課題解決の道筋を探る体験である。コロナ禍にあって、数少ない対面での取組みであり、参加した生徒たちの満足度も高いものであった。

- 委 員:「共通テスト」については、特に数学について難化したといわれているが、実際どうであったのか。
- 事務局:問題の文章量が増え、計算量が増え、要するに学力より処理能力が問われる問題で あったと言える。本校の生徒たちも、かなり苦戦したと思われる。
- 委員:センター試験から共通テストへ移行するにあたっての、「しかけ」がどこにあるのか、 テストの向こうにある、「未来の社会」を見て、進んでいかなければならないのでは ないか。
- 校 長:各教科の「教科目標」等について教員と話す機会を持つと、どの教科の教員も、「入 試に合格するための授業」を目標とするのではなく、「教科の本質のおもしろさを伝 える」のが目標である、と生き生きと語ってくれる。その姿勢は授業を通じて、生 徒たちの心に伝わっていくものだと思う。
- 委員: 茨高の卒業生である長男が弟に、「目の前のことだけを見ていてはいけない。遠回りでもいいからしっかりと将来を見つめなければいけない。」とアドバイスしているのを見て、茨高での学びが、浸透しているのだと実感したことがある。

#### ②教科書選定について

現在(6月11日現在)、各教科で次年度の教科書を選定中であり、次回、第2回の学校運営協議会の際に、選定した教科書をご覧いただく予定である。

#### ③その他

- 委員:学校説明会用の資料(参考資料として委員に配付)について、卒業生からのメッセージの中で、どの先生も担当教科を愛していて、個性豊かで楽しそうに見えた、とある。また、「数学を探求している」という言葉も出でくるが、それはどのようなものか。
- 事務局:問題を解いていく中で、その過程で出てくる疑問等を生徒に投げかけ、一緒に考えていくこと等も「探求」といえるのではないかと思う。
- 校 長:数学に限らず、教科の特性に応じて、教員同士で日々授業方法について議論しあったり、時には教科書のレベルを超えた学問的な見地からの説明を取り入れたり、問題演習の中で、問題文の文章から人生哲学を読み取ったり、とそれぞれの教科の授業で、まさに「探求」がなされているのではないかと思う。

校 長:今後、府立高校はそれぞれの学校ごとに「スクールミッション」「スクールポリシー」を策定することになっている。また、委員の皆さまにもご助言いただきたい。

### ④次回学校運営協議会の日程

第2回学校運営協議会 令和4年10月8日(土) 14:00~